

共生型常設型居場所をどう広げるか

提言

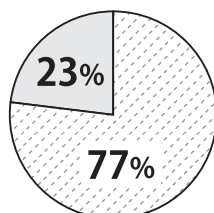
住民は「いつでもだれでも型」の居場所を心の底では望んでいる。そこでは人と人がつながり、弱みも含めてのおしゃべりで共感が生まれ、助け合う関係に発展し、いきがいある安心社会につながる。それは、地域共生社会の推進に不可欠の拠点である。まずはイメージを共有する機会をつくり、仕掛ける側、住民共に理解を広げていこう。

登壇者

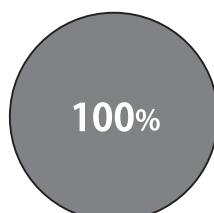
【進行役】	鶴山 芳子	(公財) さわやか福祉財団理事
	荒木 純子氏	(特非) ゆっくりサロン理事長、那須町第2層SC
	秋元 康雄氏	(特非) 居場所コム代表理事
	松下 武人氏	藤枝市地域交通課 (前藤枝市第1層SC)
	稲葉 ゆり子氏	たすけあい遠州代表、高南の居場所あえるもん副代表
	永濱 旭氏	枚方市第2層SC

アンケートの結果 参加者概数：169名（オンライン：165名、会場：4名） 回答者数：48名

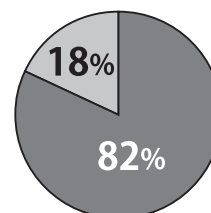
回答者の所属先



助け合い活動をすすめる立場の方



その他の方



■ 議事要旨 鶴山 芳子

各地で通いの場やサロンなどが広がる中、住民からは「いつでもだれでも型」がほしいという声上がるのに、なぜ、そう広がらないのか。そこで、イベント型の居場所を「いつでもだれでも型」に発展するにはどうしたらよいかを議論した。

体験から「いつでもだれでも型のイメージが伝わっていないのでは」との意見があり、まずは立ち上げや運営のプロセスからイメージを共有したところ、広げるヒントがたくさん見られた。多様な人がつながり関係が広がる居場所は、共生の地域づくりを推進する拠点だった。

●住民は共生の場を望み、

それが地域課題の解決につながる

地域のニーズや住民の声を聞き、その課題を解決しようとしている。大阪府枚方市の商店街の空き店舗で始めた居場所は「集客につながる店舗の誘致」ではなく「地域で必要とされる商店街」になる、住民のニーズは「高齢者の買い物支援、子育て世帯への支援、交流の場の提供」などであり、「できること」として始めた。静岡県袋井市では地区のまちづくり研究会が地域課題を話し合い、福祉の課題を解決しようと立ち上げた。

●多様な人の主体的参加が理解者を広げる

「どんな居場所にしていきたいか」を地域の実行委員会、多団体と連携するなど、話し合っている。東京都文京区の居場所は12町会、民生委員、ボランティア、更生保護女性の会、子どもの会、青少年委員等々が話し合いを重ね立ち上げた。多様な参加と理解が広がり、それは運営のプロセスでも「口コミ」や「協力」「多様な人の参加」につながっている。

●声を拾って活動に「役割と出番」をつくる

「準備をしてお迎え」ではなく、居場所に来ている人の声に応じて活動が生まれ広がっている。栃木県那須町の

居場所では「やってみたい」を拾い、多様な活動が生まれている。枚方市では「地域には『何かやりたいな、なんでも手伝うで』という人たちが潜在的にいて『なんか知らんけど手伝ったんで!』と共感してくれる人たちが担い手となって湧き出てくる」という。居場所をきっかけに人が動き出す。

●弱みも話し合える場に

「『人と人のほど良い距離』が大切。それは「ここにいない人の話はしない。空気をきれいにすればいい話しかしなくなる」と。居心地のよい空気感は自然に弱みも話せ、助け合いが始まる。

●きらりと光る人を見つけ広げる仲間に

静岡県藤枝市は総合事業で補助をと居場所の調査をした時、住民から「補助を受けると縛りが出る」と反応があった。そこには「思いがあり、仲間と時間をかけてつくり上げていくプロセスがあるため」と気づき、そのままの運営を生かせるようにした。志ある人たちは「きらりと光る魅力がある」と。その力も生かしたい。

●毎日開けたほうが楽

議論が進むにつれ「毎日開いてだれでも受け入れるのは大変そう」といったイメージは次第に少なくなる。その頃、実践者たちは「毎日開いているほうが楽」と口々に発言。

●イメージをどう伝えるかを議論

「実践者の魅力の発信」「シンポジウムやセミナーで実践の話」「現場視察」「体験会」等々。百聞は一見に如かず、「集う人たちが笑顔になる」場を体感し、気負いなく開き、多様な人が交わることで多様な効果が生まれることを実感してはどうか。イベント型居場所の実践者や仕掛ける人たちも、まずはイメージを共有し、広げるヒントにしてほしい。

■ 寄せられた声から

- 常設型の居場所運営の方が楽!
- 共生型居場所について、毎日開くということが大変で増えていかないと思い込んでいたが、分科会の中で毎日開いているからこそ色々考えなくて楽とか、いろいろな人の出入りが可能になるなどの発言が聞かれ、印象的でした。
- 稲葉さん「(常設型居場所「あえるもん」では)ここにいない人の話はしない。空気をきれいにすればいい話しかしなくなる」。‘あえるもん’というネーミングもキュンキュンして素敵すぎる。

